

みなお通信

高崎市議会議員 高橋美奈雄

<市政相談連絡先>

〒370-0041

高崎市東貝沢町2丁目32-6

TEL&FAX 027-363-2733

E-mail: minao.t@jcom.home.ne.jp

市議会定例会報告

令和3年第3回市議会定例会は、15日間の会期で開かれました。

本定例会では、請負契約締結について（高崎市高浜クリーンセンター建設工事）、土地取得について、財産の取得について（高規格救急自動車）、高崎市介護保険条例の一部改正について、高崎市建築基準法関係手数料条例の一部改正について、令和3年度高崎市一般会計補正予算（第3号・第4号）、人権擁護委員候補者の推薦についてなどの議案の審議を行い、いずれも原案のとおり可決・同意しました。

なお、次回定例会は9月7日開会の予定です。

<令和3年度一般会計補正予算を可決>

一般会計の歳入歳出予算の総額に29億614万円を増額し、予算の総額を1,684億1,813万円としました。主な内容としては、ワクチンを64歳以下の対象者へ接種するための新型コロナウイルス予防接種事業に18億8,027万円、陽性患者を受け入れるために専用の病床を整備する市内の病院に対し、費用の一部を補助する救急医療対策事業に6,000万円、低所得の子育て世帯を支援するため、すでに給付対象となっているひとり親世帯に加えて対象とする生活支援特別給付金給付事業に3億1,533万円が計上されました。

また、老朽化した高浜クリーンセンターを建て替えるための建設工事の契約を締結し、契約金額は196億9,000万円で竣工日は令和7年1月31日、鉄筋コンクリート造 地上5階地下1階建て 延床面積は約3万836㎡になる予定です。

感染拡大防止と市民の皆さまの安全な生活を守るため、厳しい財政状況の中での補正予算増額の議決となりました。この危機感を行政・議会・住民の皆さまで共有し、一日も早く日常生活を取り戻せますようこれからも活動してまいります。



六月定例会

市政に対する一般質問

一般質問は、三日間にわたり二十四人の議員が行い、高橋みなおは三日目に登壇し、質問しました。以下、概要を報告します。

ワクチン接種の現状と 若年層への対応について

質疑 国の新型コロナウイルスワクチン接種の促進を受けて、各自治体もあらゆる方法により、体制強化を図っていると認識している。県のGメッセでの集団接種に加え、本市においても接種加速を図るため土曜・日曜・祝日に市内8か所で集団接種会場を設置した。本市独自の体制と市民への周知説明について伺う。

答弁 各医療機関における個別接種に加えて、本市が運営主体となる集団接種を開始し、約9万回の接種を見込んでいます。関わる医師や看護師は、市内の病院やクリニックから派遣していただき、市医師会看護専門学校や生協の協力も得て行う。受付等は市役所職員を派遣する。予約申し込みは、電話や専用ホームページから行うことができる。

質疑 本市は職種による優先順位を好ましくないとしたが、今後は生産年齢世代への

対応になる。また、基礎疾患を有する方や障がいをお持ちの皆さまへの接種についてはどのような対応を検討しているのか。

答弁 重症心身障害や重い精神疾患、知的障害等を有する方を含む、基礎疾患を有する方へは、年齢区分より早期の接種開始を予定している。

質疑 ワクチン供給との関係で、予定を示すことが難しいのは承知しているが若い年齢層を含む市民への早めの情報提供は大切と考える。接種のロードマップを示すことが求められていると思うが見解を。

答弁 接種の見通しをお知らせすることは重要と考えている。国からの供給予定を踏まえて速やかに決定し、市民にお知らせしていく。

社会経済活動の中で希望によるPCR検査について

質疑 ワクチンがいきわたるまでに社会経済活動を動かすためには、市内中小企業の皆さまからの検査ニーズに対応する環境整備が大切である。行政の行う医療的検査とともに、企業の安定経営を守るためには社会的検査の必要性が求められているのではないか。

答弁 社会的検査は本人の希望による自

費検査になるため、対応している医療機関を紹介している。

質疑 様々な事業主体において、会社や社員を守るためには必ずしも陽性が疑われない場合においても検査が受けられる体制は必要と考える。地域社会における経済活動の中で要望が増加しており、市内企業を守りながら経済を後押しするためにも制度を整えた新たなPCR検査の支援も必要と思うが見解を。

答弁 症状がある人や濃厚接触者など感染の疑いがある人には行政検査を実施している。対象者をどの範囲まで対応すべきか、財政面・医療体制・検査体制などの課題に対して慎重に検討していきたい。

♪ 後記 ♪

コロナ禍でのオリンピック開催について、様々な意見や考えがあるのは当然のことであり、何が正解なのかもわかりません。ただ、この時のために人生をかけて努力してきた選手たちが、今まで応援してくれた全ての人に感謝の気持ちを伝えていく表情は、清々しく美しいものだと感じている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

今年の夏、中体連をはじめ、各種大会の審判をお手伝いさせていただき、子どもたちが厳しい制限のある環境でも、強くたくましくプレーする姿に喜びを感じるとともに、毎日熱心に指導してくださる先生方の姿にも、とても感動したのは私だけではないでしょう。